

静岡経済研究所

NEWS RELEASE

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
静岡市葵区追手町 1-13
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

2017年ゴールデンウィーク集客動向調査

～県内の人出は前年比+2.6%増 1日平均では+14.0%増

- 今年のゴールデンウィーク期間中（9日間：4月29日～5月7日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（240カ所）の人出は延べ692万人で、前年（10日間：4月29日～5月8日、675万人）より1日短かったものの、全体の人出は前年比+2.6%の増加となった。1日平均では76.9万人で、昨年（67.5万人）に比べ+14.0%と、県内各地は多くの行楽客で賑わった。
- 今年の特徴は、天候に恵まれて曜日配列もよく、前年のGW直前に発生した熊本地震のような行楽気分を抑制する要因がなかったため屋外イベントが好調だったのに対し、好天がマイナスに作用した屋内型施設では集客に苦戦。「浜松まつり」（浜松市）や「藤まつり」（藤枝市）などの『イベント・祭り』（前年比+11.2%）が前年を上回る一方、『アミューズメント施設、参加・体験型施設』（同△5.9%）や『博物館、美術館、歴史資料館』（同△10.0%）が減少した。
- 西部地域では大河ドラマ「おんな城主 直虎」放映が集客の追い風になっており、夏の行楽シーズンに向け“直虎効果”の広がりに期待がかかる。また、来場者の消費単価は前年より上昇しており、こうした傾向が続けば、観光関連事業者の経営環境好転につながるとみられる。

担当:清 亮介、鈴木 友実

2017年ゴールデンウィーク集客動向調査

～県内の人出は前年比+2.6%増 1日平均では+14.0%増

- 今年のゴールデンウィーク期間中（9日間：4月29日～5月7日）に、静岡県内各地で行われたイベントや主要観光施設（240カ所）の人出は延べ692万人で、前年（10日間：4月29日～5月8日、675万人）より1日短かったものの、全体の人出は前年比+2.6%の増加となった。1日平均では76.9万人で、昨年（67.5万人）に比べ+14.0%と、県内各地は多くの行楽客で賑わった。
- 今年の特徴は、天候に恵まれて曜日配列もよく、前年のGW直前に発生した熊本地震のような行楽気分を抑制する要因がなかったため屋外イベントが好調だったのに対し、好天がマイナスに作用した屋内型施設では集客に苦戦。「浜松まつり」（浜松市）や「藤まつり」（藤枝市）などの『イベント・祭り』（前年比+11.2%）が前年を上回る一方、『アミューズメント施設、参加・体験型施設』（同△5.9%）や『博物館、美術館、歴史資料館』（同△10.0%）が減少した。
- 西部地域では大河ドラマ「おんな城主 直虎」放映が集客の追い風になっており、夏の行楽シーズンに向け“直虎効果”の広がりに期待がかかる。また、来場者の消費単価は前年より上昇しており、こうした傾向が続けば、観光関連事業者の経営環境好転につながるとみられる。

東部・中部・西部ともに前年比プラス、 浜松まつりは10万人以上増加

今年のゴールデンウィーク（以下、GW）は、4月29日（土）から5月7日（日）までの9日間と前年（4月29日（金）～5月8日（日））より1日短かったものの、3～7日が暦の上で5連休となり、曜日配列に恵まれた。また、静岡地方気象台の発表によると、初日の4月29日こそ夕方から一時的な大雨に見舞われたが、総じて晴れの日が多く、絶好の行楽日和となった。

加えて、前年のGW直前に発生した熊本地震のような行楽気分を抑制する要因がなかったことから行楽客の動きも活発になったとみられ、GW期間中の静岡県内の主なイベントや観光施設240カ

所の人出は延べ692万人、全体では+2.6%増加となった。1日平均にすると76.9万人で、昨年（67.5万人）と比べ+14.0%の増加となり、県内各地は多くの行楽客で賑わった（詳細は6頁、図表5参照）。

地域別にみると、西部地域は、恒例の「浜松まつり」の人出が10万人以上増えたことが寄与し、地域全体でも前年比+2.1%増加した。中部地域は、「シズオカ・サンバカーニバル」が前年より1万人減の15万人となったものの、GW期間中に見ごろを迎えた「藤まつり」や、根強い人気の「焼津さかなセンター」が人出を集め、地域全体では同+3.7%増加した。東部地域も、子供向けのイベントや屋外施設を中心に前年を+2.7%上回った。



▲好天に恵まれ、盛り上がった浜松まつり



▲華やかなダンサーが商店街を彩ったサンバカーニバル

なお、5万人以上を集客したイベントや施設は図表1の通りである。

以下、GW期間中のイベントや観光施設を6つのグループに分け、今年の特徴をみていく。

1. イベント・祭り (32先)

〔 人出 301.6万人 **前年比+11.2%** 〕

～好天により、屋外イベントが好調～

県内のイベントや祭りの集客数は、301.6万人と前年に比べて+11.2%増加した。GW期間中で県内最大の祭りである「浜松まつり」(浜松市)は、前年に続いて3日間とも好天に恵まれ、期間合計で185.9万人と10万人以上増加、前年比では

+7.0%となった。また、「藤まつり」(藤枝市、同+16.7%)、「池田・熊野の長藤まつり」(磐田市、同+8.6%)は、例年より藤の開花が遅れたことで開花のピークがGWと重なったため、『観光客が集中し、来場者数の増加につながった』といった声が聞かれた。

県西部では、現在放送中のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」の主人公“井伊直虎”ゆかりの「龍潭寺」(浜松市)で開催された「新緑・さつきまつり」に、前年の4倍を超える3万5,000人が訪れた。そのほか、近隣の「竜ヶ岩洞」(浜松市)に前年比1割増の1万9,000人を超える来場者があり、周辺では多くの県外ナンバ

図表1 静岡県内のGW集客5万人以上のイベント、施設

	イベント、施設名	集客人数	前年比		イベント、施設名	集客人数	前年比
1	浜松まつり(浜松市)	185.9万人	+7.0%	8	浜名湖ガーデンパーク(浜松市)	8.3万人	+4.1%
2	シズオカ・サンバカーニバル(静岡市)	15.0万人	△6.3%	9	浅間大社 やぶさめ祭(富士宮市)	8.0万人	+14.3%
3	藤まつり(藤枝市)	14.6万人	+16.7%	10	道の駅 朝霧高原(富士宮市)	7.8万人	△4.8%
4	富士川楽座(富士市)	14.2万人	+13.3%	11	由比桜えびまつり(静岡市)	7.0万人	±0.0%
5	アクトシティ浜松(浜松市)	12.4万人	△21.5%	12	焼津さかなセンター(焼津市)	6.9万人	+9.1%
6	道の駅 伊東マリンタウン(伊東市)	11.7万人	+2.7%	13	静岡市立日本平動物園(静岡市)	5.6万人	△7.6%
7	道の駅 伊豆ゲートウェイ函南(函南町)	8.6万人	5/1オープン	14	用宗漁港まつり(静岡市)	5.0万人	前年4/23開催

資料：当所アンケート

一の車がみられ、大河ドラマ効果により県内外から多くの人が訪れた。

2. 交流拠点 (39先)

〔人出 224.3万人 前年比 $\Delta 1.5\%$ 〕

～東部で前年を上回るも、全体では前割れ～

大型商業施設や道の駅などを含む交流拠点は、全体では224.3万人（前年比 $\Delta 1.5\%$ ）と、前年を下回った。

百貨店やショッピングセンターなど大型商業施設は、人出が屋外のイベントや施設に流れたことで減少したところが目立ち、“道の駅”では、回答のあった18施設中9施設で前年実績を割り込んだ。ただし、狩野川沿いに5月1日オープンした「道の駅 伊豆ゲートウェイ函南」（函南町）では、7日間でおよそ8万6,000人の人出がみられたほか、2月から観覧車が稼働した「富士川楽座」（富士市、同 $+13.3\%$ ）や、昨年6月にリニューアルオープンした「道の駅 伊豆のへそ」（伊豆の国市、同 $+502.9\%$ ）などが健闘し、東部地域の集客に寄与した。

3. アミューズメント施設、参加・体験型施設 (73先)

〔人出 92.1万人 前年比 $\Delta 5.9\%$ 〕

～屋外型施設が堅調、屋内型は前年割れ～

アミューズメント施設や参加・体験型施設の来場者は92.1万人（前年比 $\Delta 5.9\%$ ）と、前年を割り込んだ。

このうち参加・体験型施設は、来場者が85.7万人と前年比 $\Delta 6.6\%$ となった。キャンプ場では、天候に恵まれて過ごしやすい気候になったことから、前年比で $+0.8\%$ 増加した。ただし、前年に日本選手権競輪（G I）本場開催、ファミリー向けイベントもあった「静岡競輪場」（静岡市）で



▲ “直虎効果” でにぎわった龍潭寺

は、その反動で $\Delta 27.8\%$ と大きく減少した。

好天は屋内型施設の集客にマイナスに働いたようで、「静岡科学館る・く・る」（静岡市、前年比 $\Delta 31.7\%$ ）、「ディスカバリーパーク焼津天文学館」（焼津市、同 $\Delta 11.2\%$ ）など来場者が前年割れする施設が多く、苦戦を強いられた。

映画館は、「美女と野獣」が大人気で、邦画でも「名探偵コナン」などが健闘、入館者は前年比 $+7.4\%$ と好調であった。

4. 動植物園・水族館 (22先)

〔人出 39.2万人 前年比 $\Delta 2.6\%$ 〕

～中・西部で苦戦するも東部が健闘～

動植物園・水族館は全体で39.2万人と、前年を $\Delta 2.6\%$ 下回った。西部地域では、“浜名湖花フェスタ2017”が開催されており、「浜名湖ガーデンパーク」（浜松市、同 $+4.1\%$ ）に前年を上回る来場者があったものの、「はままつフラワーパーク」（浜松市、同 $\Delta 0.3\%$ ）では前年を割り込むなど、地域全体で同 $\Delta 4.1\%$ 減少した。中部地域でも、「静岡市立日本平動物園」（静岡市、同 $\Delta 7.6\%$ ）が前年割れとなった。ただし、開園時間を7時に早めて『「朝の動物園」を開催し、前年に比べ1日当たりの入園者数は増加した』と、運営側では手ごたえを感じたようである。

一方、東部地域は前年を $+2.3\%$ 上回った。首

都圏など県外から訪れる行楽客が多く、「伊豆シャボテン公園」（伊東市、同+8.1%）や、「伊豆アニマルキングダム」（東伊豆町、同+9.1%）など、伊豆半島の施設の好調ぶりが目立った。

5. 博物館、美術館、歴史資料館（47先）

〔人出 21.4万人 前年比 $\Delta 10.0\%$ 〕

～企画内容や話題性で集客に開き～

博物館や美術館、歴史資料館の来場者数は、前年比 $\Delta 10.0\%$ 減の21.4万人となった。

東部地域は、同 $\Delta 17.6\%$ と減少した。「韮山反射炉」（伊豆の国市、前年比 $\Delta 21.8\%$ ）で世界遺産登録後の反響に一服感が出たことなどが響いた。中部地域では、「静岡県立美術館」（静岡市、同+96.0%）の“黄金のファラオと大ピラミッド展”が好評、同館には前年の2倍近い来場者が訪れた。しかし、「久能山東照宮」（静岡市、同 $\Delta 4.8\%$ ）など他の施設が前年割れとなり、全体でも同 $\Delta 13.8\%$ の減少となった。一方、西部地域は同+4.7%の増加となった。回答があった13カ所のうち8カ所が前年割れとなったが、“直虎”効果のあった「浜松城」（浜松市、同+1.4%）や「浜松市地域遺産センター」（新設）が健闘した。

6. 日帰り温浴施設（27先）

〔人出 13.2万人 前年比 $\Delta 2.6\%$ 〕

～好天の影響で客足伸びず～

日帰り温浴施設は、好天になると集客が伸び悩む傾向があり、13.2万人（前年比 $\Delta 2.6\%$ ）と前年を下回った。

なかでも、イベント・祭りが盛況だった西部地域（同 $\Delta 8.1\%$ ）の減少が目立つ。中部地域（同 $\Delta 2.0\%$ ）、東部地域（同 $\Delta 1.3\%$ ）も前年割れだが、伊豆エリアでは『帰省した人や別荘へ来た人

で多少増えた』との声が聞かれた。

県内の交通量は

陸路・空路とも前年を上回る

GW期間中における交通機関の利用状況をみると、まず、4月28日から5月7日の東名・新東名高速道路の県内区間（東名：御殿場IC～三ヶ日JCT、新東名：御殿場JCT～浜松いなさJCT）の交通量は、1日の平均交通量が11万8,600台（中日本高速道路㈱発表）と、前年に比べて+7.7%増加した。

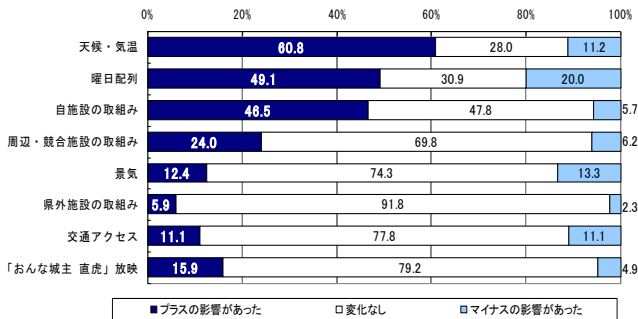
高速道路以外の有料道路の交通量も、前年比+3.5%増加した。西部地域では磐田市と浜松市を結ぶ新掛塚橋（遠州大橋）が、同 $\Delta 15.3\%$ 減少したものの、浜松市の浜名湖新橋（はまゆう大橋）利用量が増加。東部地域では伊豆スカイラインが同+10.1%上回ったほか、箱根スカイライン（同+5.3%）や伊豆中央道（同+4.2%）も前年を上回った。

鉄道では、JR東海管内における4月28日～5月7日までの新幹線の利用者は337.1万人と、前年比+11.0%増加した。また、県内在来線の特急列車（御殿場線、身延線）の利用客は約2.0万人で、同+4.7%増加した。

富士山静岡空港の利用状況（4月28日～5月7日）をみると、国内線は、全日空が4,615人（平均搭乗率69.4%）、FDAが7,704人（同77.1%）で、合計1万2,319人となった。対象期間（今年10日間、前年11日間）が前年より短かったものの、全日空、FDAともに搭乗者が増加し、搭乗率も上昇した。

以上のように、交通機関の利用状況は、総じて前年を上回った模様である。

図表2 来場者の増減要因



資料：図表1と同じ

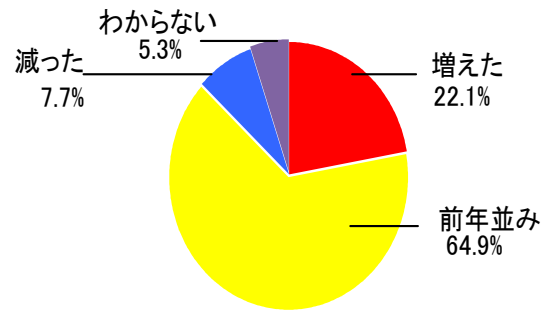
夏季に向け“直虎効果”の地域的拡大を消費単価は上昇、経営環境の好転を期待

このように今年のGW期間中の県内施設・イベントへの人出は、日数が1日短かったにもかかわらず、前年比+2.6%と堅調な結果となった。

来場者の増減要因としては、「天候・気温」を挙げる事業者が60.8%と最も多かった。屋外施設やイベントに大きな追い風になったが、屋内型施設には苦戦の要因ともなったようである(図表2)。次いで、49.1%がプラスにとらえた「曜日配列」については、『昨年より連休が短い分、近場で過ごす傾向が強まり、来場者が増加した』といった声が聞かれた。また、独自イベントや特別企画といった「自施設の取組み」がプラスに寄与との回答が46.5%あり、天候、曜日配列という外部要因と自施設の取組みとが相乗効果を発揮し、県全体として来場者数増につながったとみられる。

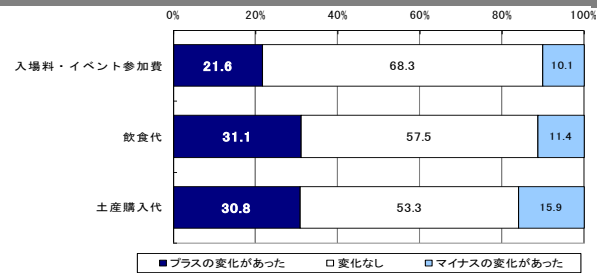
一方、GWの行楽客のメインとなる子供連れファミリー層の来場者に占める割合は45.8%と、おおむね半数を占める。子供連れファミリー層の来訪について、昨年より「減った」との事業者が7.7%にとどまる一方、「増えた」は22.1%となり、今年の集客増の特徴となっている(図表3)。

図表3 子供連れファミリー層の来場動向



資料：図表1と同じ

図表4 来場者の消費単価



資料：図表1と同じ

また、西部地域では、大河ドラマ「おんな城主直虎」放映が集客の追い風になっているが、県全体では“プラスの影響”があるとの回答は15.9%にとどまっており、夏の行楽シーズンに向けて、“直虎効果”の地域的な広がり期待がかかる。今春には名古屋市にレゴランド・ジャパンがオープンするなど県外の新規観光施設の影響も懸念されたが、今回のアンケートでは9割近くが「影響なし」と回答、来場者の増減に大きな影響はなかったようだ。

なお、来場者の消費単価について尋ねたところ、3割の事業者が飲食代や土産購入代に「プラスの変化があった」と感じている(図表4)。前年調査では同割合が2割程度だったことを考えると、GW期間中の来場者の消費単価は前年より上昇しており、こうした傾向が続けば、観光関連事業者の経営環境好転につながるとみられる。

図表5 2017年GW静岡県内イベント・観光施設の入出

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
富士川楽座	富士市	141,708	+13.3
道の駅 伊東マリンタウン	伊東市	117,422	+2.7
道の駅 伊豆ゲートウェイ函南	函南町	85,800	—
浅間大社 やぶさめ祭	富士宮市	80,000	+14.3
道の駅 朝霧高原	富士宮市	77,920	△4.8
小室山つつじ祭り	伊東市	48,700	+23.0
伊豆ぐらんぱる公園	伊東市	42,395	+23.4
春の大通り商店街まつり	三島市	42,000	+5.0
姫の沢公園・花まつり	熱海市	41,500	△45.4
富士山こどもの国	富士市	40,721	△4.0
沼津 みなと新鮮館	沼津市	37,119	+18.2
春のあたまビール祭り	熱海市	34,000	+36.0
富士山樹空の森	御殿場市	32,540	△22.6
白糸の滝	富士宮市	30,869	△11.7
道の駅 ふじおやま	小山町	30,384	△0.6
伊豆シャボテン公園	伊東市	27,318	+8.1
こいのぼりフェスティバル	沼津市	27,300	+30.0
伊豆アニマルキングダム	東伊豆町	24,559	+9.1
あさぎりフードパーク	富士宮市	21,800	△17.4
伊豆修善寺サイクルスポーツセンター	伊豆市	21,360	△2.4
三島市立公園 楽寿園	三島市	20,217	+0.8
道の駅 開国下田みなと	下田市	18,955	△4.3
修善寺 虹の郷	伊豆市	18,328	△10.9
韭山反射炉	伊豆の国市	14,943	△21.8
道の駅 伊豆のへそ	伊豆の国市	14,120	+502.9
酪農王国 オラッチェ	函南町	13,534	△29.8
初島ところ天まつり	熱海市	13,148	+21.8
沼津港大型展望水門「びゅうお」	沼津市	12,148	△6.8
松崎町たんぼを使った花畑	松崎町	11,912	+9.5
すその美人の湯 ヘルシーパーク裾野	裾野市	11,257	△7.5
環境省田貫湖ふれあい自然塾	富士宮市	9,937	△1.4
下田ロープウェイ	下田市	7,867	△1.5
土肥金山	伊豆市	7,624	△6.6
ごてんば市温泉会館	御殿場市	5,905	△6.8
富士山天母の湯	富士宮市	5,530	△3.9
東部地域その他77カ所		1,111,742	—
東部地域合計		2,302,582	+2.7
シズオカ・サンパカーニバル	静岡市	150,000	△6.3
藤まつり	藤枝市	145,700	+16.7
由比桜えびまつり	静岡市	70,000	±0.0
焼津さかなセンター	焼津市	69,741	+9.1
静岡市立日本平動物園	静岡市	56,402	△7.6
用宗漁港まつり	静岡市	50,000	—
静岡競輪場	静岡市	42,710	△27.8
清水魚市場 河岸の市	静岡市	40,796	△9.7
富士山静岡空港	牧之原市	39,522	△7.3
草薙総合運動場	静岡市	37,297	+17.6
ツインメッセ静岡	静岡市	30,350	+2271.1

イベント、施設名	所在地	入出(人)	前年比(%)
久能山東照宮	静岡市	24,630	△4.8
グランシップ	静岡市	19,899	+8.4
県営吉田公園	吉田町	18,287	△0.6
静岡県立美術館	静岡市	18,180	+96.0
I A I スタジアム日本平	静岡市	15,228	+37.7
大井川港朝市	焼津市	15,000	+0.0
静岡市立登呂博物館	静岡市	13,607	△34.1
道の駅 川根温泉	島田市	12,829	△11.2
静岡科学館る・く・る	静岡市	12,574	△31.7
ディスカバリーパーク焼津天文科学館	焼津市	11,221	△11.2
東海大学海洋学部博物館	静岡市	10,175	△16.9
さがら子生れ温泉会館	牧之原市	10,101	△4.5
体験工房 駿府匠宿	静岡市	9,210	△14.1
大久保グラススキー場	藤枝市	7,878	△10.7
瀬戸谷温泉ゆらく	藤枝市	7,092	△7.5
中部地域その他37カ所		219,277	—
中部地域合計		1,157,706	+3.7
浜松まつり	浜松市	1,859,000	+7.0
アクトシティ浜松	浜松市	124,272	△21.5
浜名湖ガーデンパーク	浜松市	83,403	+4.1
道の駅 掛川	掛川市	49,762	+55.5
道の駅 潮見坂	湖西市	46,720	△5.9
静岡県立森林公園	浜松市	46,000	△4.2
はままつフラワーパーク	浜松市	44,729	△0.3
うなぎバイファクトリー	浜松市	43,324	△6.1
浜松市動物園	浜松市	41,775	△11.7
池田・熊野の長藤まつり	磐田市	38,000	+8.6
龍潭寺 庭園と新緑・さつきまつり	浜松市	35,000	+364.6
浜名湖競艇場	湖西市	29,531	△13.5
浜松オートレース場	浜松市	28,663	△4.8
浜松城	浜松市	19,612	+1.4
竜ヶ岩洞	浜松市	19,152	+9.9
浜松出世の館	浜松市	17,282	—
ヤマハスタジアム	磐田市	14,495	+0.8
県営遠州灘海浜公園	浜松市	14,200	△11.3
掛川城	掛川市	12,486	△4.3
浜岡原子力館	御前崎市	10,297	△11.1
採れたて元気村	磐田市	9,962	△12.5
森町体験の里 アクティ森	森町	9,869	△9.0
アメニティプラザ	湖西市	7,001	△9.8
道の駅 くま水車の里	浜松市	6,820	+14.4
道の駅 いっぶく処横川	浜松市	6,681	△12.0
浜名湖体験学習施設ウオット	浜松市	6,348	+29.0
浜名湖渚園キャンプ場	浜松市	5,970	△5.0
浜松市地域遺産センター	浜松市	5,956	—
浜松市楽器博物館	浜松市	5,124	△16.2
西部地域その他36カ所		817,486	—
西部地域合計		3,458,920	+2.1
静岡県合計		6,919,208	+2.6

資料：図表1に同じ

注1) データ公表が可能で、入込客数が5,000人以上のイベント・施設のみを掲載した。

注2) 各地域の最下部には、入出が5,000人未満およびデータ公表を不可としたイベント・施設の数字を合算して記載した。

注3) 入出の合計値は、今年度の実数が把握可能なすべての数値を合算。

調査方法：GW期間中の主なイベントや観光・レジャー施設など、435先に調査票を発送、うち240カ所から回答を得た（回答率55.2%）